

Ⅲ. 専 門 分 野

[成人看護学・老年看護学]

必修科目(18)

科目	成人看護学 成人看護概論	単 位	1	時 間 数	15	開 講 期	1年 前期	担 当 者	看護師：瀧 泉
----	-----------------	--------	---	-------------	----	-------------	----------	-------------	---------

講義の概要および学習目標	<p>人間の一生の中で成人期は最も長い時期である。この科目では、まず成人期とはどのような時期なのか、発達段階の特徴を理解する。そして、健康を資源によりよく生きるためには、成人期をどう過ごせばよいのか考える。わが国の保健問題の動向と対策を概観し、成人期を生きる人々の多様な健康状態や健康問題に対応するための基本的な考え方や方法を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期から老年期へと続く変化の過程を“人間の発達の過程”と捉え、成人各期の特徴を説明できる 2 成人期にみられる健康問題を、生活に焦点をあて理解する 3 成人期を生きる人が健康な生活を作り出すための、看護者の役割、看護アプローチの基本を学ぶ
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間のライフサイクルにおける成人期、発達課題と発達危機 2 青年期・成人前期の特徴と保健問題 3 壮年期・中年期・向老期の特徴と発達課題 4 成人を取り巻く環境と生活から見た健康 生活習慣病・職業性疾病 5 成人の生活と健康をまもりはぐくむシステム 6 ストレスと健康生活 ストレスマネジメント 7 成人学習者の特徴と健康教育・患者教育 効果的なアプローチ
評価法	<p>筆記試験 提出課題 出席状況</p>
受講生への要望	<p>社会の期待に応える看護職になるためには、社会の動向やニーズを知る必要がある。授業の内容がより身近なものとして理解できるよう、人の健康や成人に関する保健問題社会制度に関するニュースに、普段から興味をもってほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「成人看護学総論」／小松 浩子 他／医学書院 2) 国民衛生の動向(2026/2027)／厚生統計協会 3) 生涯人間発達論 第3版／服部 祥子／医学書院
参考文献	<p>授業の中で紹介していきます</p>

※「看護の展開セット」の内容は、次頁を参照してください。

科目	担当者	テキスト：書名・発行所	参考文献：書名・発行所
成人看護の展開 Ⅰ	松永 貴子 松本 理恵	1) 系統看護学講座 専門分野 「呼吸器」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「循環器」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「がん看護学」 医学書院 4) 系統看護学講座 別巻 「クリティカルケア看護学」 医学書院 5) 系統看護学講座 別巻 「臨床放射線医学」 医学書院	1) 看護の展開セット 2) 看護の生理学 (3) 人間をみる看護の視点
	放射線医師	1) 系統看護学講座 別巻 「臨床放射線医学」 医学書院	
	臨床工学技士	1) 「写真でわかる臨床看護技術①」 本庄恵子 他 インターメディカ	1) 「MEの基礎知識と安全管理」 日本生体医工学会 南江堂
成人看護の展開 Ⅱ	宮田 芳衣 河内 友子	1) 系統看護学講座 専門分野 「消化器」 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護総論」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護各論」 医学書院	1) 看護の展開セット
	皮膚・排泄ケア 認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野 「消化器」 医学書院	
	静岡病院 医師	1) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護総論」 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 「臨床外科看護各論」 医学書院	
成人看護の展開 Ⅲ	松永しのぶ 山口 一世 倉持有希子	1) 系統看護学講座 専門分野 「耳鼻咽喉」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「運動器」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野 「女性生殖器」 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野 「成人看護学総論」 医学書院 5) 系統看護学講座 専門分野 「臨床外科看護各論」 医学書院	1) 看護の展開セット
	皮膚・排泄ケア 認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野 「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「皮膚」 医学書院	

成人看護の展開 IV	河内 友子 中村 泉	1) 系統看護学講座 専門分野 「内分泌・代謝」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「アレルギー 膠原病 感染症」 医学書院 3) 糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂 4) 系統看護学講座 専門分野 「血液・造血器」 医学書院 5) 系統看護学講座 専門分野 「皮膚」 医学書院	1) 看護の展開セット
	糖尿病 認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野 「内分泌・代謝」 医学書院 2) 糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂	
	がん化学療法 看護認定看護師	1) 系統看護学講座 別巻 「がん看護学」 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 「緩和ケア」 医学書院	
成人看護 学習支援演習	山口 一世 松本 理恵	1) 系統的看護学講座 専門分野 「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 2) 系統的看護学講座 専門分野 「成人看護学総論」 医学書院	

看護の展開セット

- | | | |
|---------------|-------|-----|
| 1) 「ナースが視る人体」 | 薄井坦子 | 講談社 |
| 2) 「ナースが視る病気」 | 薄井坦子 | 講談社 |
| 3) 「健康の地図帳」 | 大久保昭行 | 講談社 |
| 4) 「からだの地図帳」 | 佐藤 達夫 | 講談社 |
| 5) 「病気の地図帳」 | 山口 和克 | 講談社 |

必修科目(19)

科目	成人看護学 成人看護の展開 I	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師:松永 貴子 看護師:松本 理恵 放射線科医師 臨床工学科技士
----	--------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	---

講義の概要および学習目標	<p>成人期にあり、生命を維持する働きに障害のある患者の看護について学ぶ。 本科目では生命を維持する働きとして循環器疾患・呼吸器疾患を取り上げる。人間は生命を維持する働きが障害されると呼吸障害、循環障害を起こし、心身共に危機状態に陥る。早急に対応する必要性を理解し、耐え難い苦痛や死を連想する対象の思いを受け止めたうえで、どのように援助を行ったらよいかを考える。</p> <p>循環器疾患患者の事例では、生命危機の最中にある患者の看護、危機を脱したあと疾患を抱えて生活する患者の看護について考える。成人期にある患者の特徴をふまえ悪化を繰り返すことなく過ごせるように、患者の生活や認識の調整を行い、治療を継続してQOLを維持できるための看護を学ぶ。</p> <p>呼吸器疾患患者の事例では、手術療法は不可能であるが、患者自ら考え決定した意志を尊重し、治療が継続できるよう看護する方法について学ぶ。</p> <p>放射線療法や精密医療機器の取扱いについて専門職者から知識・技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期にあり生命を維持する働きに障害をもつ対象を理解し、状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につける 2 生活や認識の調整を行い、セルフケア行動を獲得するための看護について考える 3 放射線療法について理解する 4 精密医療機器の取扱いが習得できる
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命を維持する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 心筋梗塞患者の看護(事例展開) 【演習】モニタリング(スワン-ガンツカテーテル、中心静脈圧、12誘導心電図)、BLS 循環器系のフィジカルアセスメント 2 生命を維持する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 肺がん患者の看護(事例展開) 【演習】呼吸器系のフィジカルアセスメント 3 放射線療法の実際 4 不整脈のある患者の看護 5 生命を維持するために必要な医療機器の取扱い <ul style="list-style-type: none"> 【演習】輸液ポンプ、シリンジポンプ等の取扱い
評価法	出席状況、提出物、小テスト、筆記試験を総合して評価します。
受講生への要望	<p>受講に際しては、事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。 臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。 主体的な学習姿勢を期待します。</p>

必修科目(20)

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	看護師:宮田 芳衣 看護師:河内 友子 皮膚・排泄ケア認定看護師 外科医師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--

講義の概要および学習目標	<p>人間は、自然界から存在に不可欠な物質を体内に取り入れ、不要物を外界に排泄している。外界から摂取した栄養物は、咀嚼され消化酵素の働きで細かく分解されて、消化管壁から血中に吸収され、人間に必要な物質に作り替えられ、不要になったものは便として排泄される。</p> <p>ここでは、癌細胞の増殖により食物を消化する機能に障害のある患者、不要物を排泄する経路に障害のある患者の看護の原則、手術療法を受ける患者の手術前・手術中・手術後の看護の原則、粘膜細胞のつくりかえが阻害され栄養を吸収する働きに障害のある患者の看護の原則について学習する。</p> <p>また、新しい排泄経路を管理しながら、自宅療養をする患者の看護について、皮膚・排泄ケア認定看護師より、専門的な知識と技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食物を消化・吸収・排泄する働きに障害をもつ対象を理解し、状況に応じた看護が出来るための基礎的能力を身につける 2 排泄経路を変更し、自宅療養をする患者の看護について、専門的な知識と技術を学ぶ 3 外科的治療(手術療法)を受ける患者の周術期全過程に対する看護について学ぶ
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 癌細胞の増殖により食物を消化する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 胃癌患者の事例展開 【演習】内視鏡検査時の看護 術後ドレナージ法 腹部のフィジカルアセスメント 術後の観察 2 癌細胞の増殖により不要物を排泄する経路に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 直腸癌患者の事例展開 【演習】ストーマケア 3 粘膜細胞のつくりかえに障害があり、栄養を吸収する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ クロウン病患者の看護 4 手術療法を受ける患者の看護
評価法	<p>課題 筆記試験 レポート</p>
受講生への要望	<p>受講に際しての事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。主体的な学習姿勢を期待します。</p>

必修科目(21)

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	看護師：松永しのぶ 看護師：山口 一世 看護師：倉持有希子 皮膚・排泄ケア認定看護師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	---

講義の概要および学習目標	<p>この科目では、感覚器、運動器、性生殖器の健康障害を持つ患者の看護について事例を通して学習する。青年期や壮年期にある人が社会生活を送りながら健康障害と向き合うとはどういうことかを考え、生涯にわたり継続した生活調整を必要とする患者の看護について学ぶ。疾患により今までの生活がどのように変化するのか、その生活に合わせて生活調整を援助するための看護を考えていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外界と個の不応現象による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける 2 生活を作り出す働きに障害がある対象の理解と、身体機能障害の程度に応じた看護実践ができるよう、知識を基に生活を維持するための看護について学ぶ 3 生命の連続性を維持する働きに障害がある対象について理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける 4 行動範囲を拡大する働きに障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 外界と個の不応現象による障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ メニエール病患者の看護 2 生活を作り出す働きに障害がある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関節リウマチ患者の事例展開 3 生命の連続性を維持する働きに障害がある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳がん患者の事例展開 ・ 乳がん患者の生活指導 【演習】乳房触診、自己検診、リンパ郭清後のケア・リハビリ 4 行動範囲を拡大する働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄損傷患者の事例展開 ・ 自力体動が困難な患者への看護 【演習】褥瘡予防のケア(体位交換、ポジショニング) 膀胱留置カテーテル管理 5 創傷ケア・治癒促進・褥瘡ケアの看護の実際
評価法	<p>筆記試験 課題提出状況 出席状況</p>
受講生への要望	<p>受講に際して事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。臨地実習へつなげるためには、ここでの学習を更に深めるための自己学習が重要です。事例展開の授業では、事例患者をイメージし、次回までの課題を進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を期待します。</p>

必修科目(22)

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅳ	単位	1	時間数	30	開講期	2年後期	担当者	看護師:河内 友子 看護師:中村 泉 糖尿病看護認定看護師 がん化学療法看護認定看護師 日本赤十字社講師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--

講義の概要および学習目標	<p>血液は、運搬と排泄・体温調節・酸塩基平衡維持・体液量維持など様々な働きを持っている。そして、血液は全身を循環しているために、全身の組織や臓器に大きく影響を及ぼし、生命の維持に重要な役割を担っている。そのことを理解したうえで、血液をつくりだす働きの障害、血液の成分の乱れ、免疫機構の乱れによる障害、ホルモンによる調節機構の障害がある対象の看護を学ぶ。</p> <p>この科目では病気の治癒ではなく、病気とともに生き寛解期を維持することを目標にした健康障害をもつ患者の看護について学習する。成人期である患者がセルフケアをしながら生活していくとはどういうことかを考える機会としたい。</p> <p>また認定看護師による化学療法を受ける患者の看護や糖尿病患者の看護の実際、支持療法である輸血の取り扱いについて専門的な知識と技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》 統一体を支える血液の破綻による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける。また寛解期が維持できるようなセルフケアを支える看護について専門的な知識と技術を学ぶ。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 代謝に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ II型糖尿病患者の事例展開 ・ 糖尿病患者の看護の実際 <p>【演習】血糖測定、インスリン注射</p> 2 造血機能に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 急性骨髄性白血病患者の事例展開 ・ 化学療法を受ける人の看護 ・ 輸血療法を受ける人の看護 3 ホルモンによる調節機構に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 甲状腺機能亢進症患者の看護 4 免疫機構に障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全身性エリテマトーデスの患者の看護 5 終了試験
評価法	<p>出席状況と授業態度 課題の提出状況および成果 筆記試験</p>
受講生への要望	<p>受講に際して事前学習・事後学習、関連既習科目の学習が必要となります。事例展開の授業では、課題を確実に進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を期待します。</p>

必修科目(23)

科目	成人看護 学習支援演習	単位	1	時間 数	20	開 講 期	2年 後期	担 当 者	看護師:山口 一世 看護師:松本 理恵
----	----------------	----	---	---------	----	-------------	----------	-------------	------------------------

講義の概要および学習目標	<p>健康が障害された状態とは、人間としての調和の乱れを自力で取り戻すことが一時的に困難になった状態であり、看護はその人がよりよく生きていくことを健康の側面から支援することである。その人がよりよく生きるためには、対象自身が調和をとることの必要性を自覚するとともに、自己管理能力を高めることが重要であり、看護職者の指導的役割は大きい。この科目では事例に対する教育計画を立て、実践することで対象の力を活かした、生活の再構築に向けた指導の方法について学ぶ。さらに、他学年との学習の経験を通して、成人学習者の特徴を知りながら、対象の主体的な学びを支援するための基本について考えていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事例指導案作成を通して、看護者としての生活の再構築に向けた支援の基本的な姿勢がわかる 2 1年生への学習支援を通して自己をも振り返りながら成人学習者の理解を深め、その支援の方法を学ぶ
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 胃切除術後患者への生活の再構築のための指導案を作成し実施する 2 乳房切除術後患者への生活の再構築のための指導案を作成し実施する 3 糖尿病患者への生活の再構築のための指導案を作成し実施する 4 1年生が自らの力で看護実践できるよう、1年生への指導案を作り支援する
評価法	個人学習、GWの参加状況、GWの成果物など総合して評価します
受講生への要望	この科目は成人看護学概論で学んだ成人学習者の特徴をふまえ、事例の状況に合わせた指導案を考えます。更に、1年生への学習支援ではそれまでの学びを活かし、関わることで、自身の学習者としての姿勢にも気づくことを期待しています。積極的な参加をお願いします。

必修科目(24)

科目	老年看護学 老年看護概論	単位	1	時間数	15	開講期	1年 後期	担当者	看護師：松永しのぶ
----	-----------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	-----------

講義の概要および学習目標	<p>ライフサイクルにおける人間の発達段階をみると、その節目ごとに発達上の意味がある。老年看護概論は「第3の人生」(科学的看護論)を生きる人の理解と、そのステージを現代の日本で生きているという視点で”生活と健康”について考え、看護師の役割、看護のアプローチの基本を学ぶ。</p> <p>《学習目標》 人間の一生の中で老年期とはどういう時期なのか、老年期の身体的・生理的・心理的な特徴を理解する。老化、病、障害を合わせ持つ状況を捉え、高齢者がより良く生活していけるために生活をどのように整えていくのか考える。また、老年期を取り巻く社会状況や課題がわかり、おかれている状況から、権利擁護、倫理的課題について考える。より良い人生の終末を迎えるための意思決定や高齢者のQOLを支援するための看護の役割を学ぶ。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の人生を知ろう –ライフヒストリーのインタビューを通して 2 高齢者の生活について考えよう –高齢者体験を通して 3 身近な高齢者がこれからも健康に生活していくための提案書作成 4 高齢者に起こりやすい症状を捉え、必要なかわりを考えよう 5 高齢者を取り巻く社会・権利擁護について 6 人生の最期をどう迎えるか –老衰死
評価法	<p>最終の授業で学習した内容の確認テストを行います。 事前学習、提案書、ライフヒストリーレポート、権利擁護についてのレポート 老衰死レポート、学びのまとめ 各課題に配点があり、確認テストと合わせて100点になります。</p>
受講生への要望	<p>自分の身近にいる高齢者と積極的にコミュニケーションや関わりを持つ機会を作って自分の世代以外の人々の価値(好きなもの、楽しみ、嫌なことなど)に興味を持とう。 高齢者に関する保健問題、制度に関するものなど、ニュースや新聞記事に、普段の生活から興味を持ち、授業の内容を身近なものとして理解できるよう努力してほしい。 授業は体験やグループワークを多く取り入れる。他者から与えられる学びだけでなく、自分自身や仲間と共に気づき、学びを深められるような取り組みを意識してほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 専門分野「老年看護学」／北川 公子 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野「老年看護 病態・疾患論」／鳥羽 研二 他／医学書院</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 1)「平穏死」という選択／石飛 幸三／幻冬舎ルネッサンス新書 2)「平穏死」10の条件／長尾 和宏／ブックマン社 3)生涯人間発達論／服部 祥子／医学書院 4)国民衛生の動向／厚生統計協会</p>

※ 「看護の展開セット」の内容は、成人看護の展開の項を参照してください。

科目	担当者	テキスト：書名・発行所	参考文献：書名・発行所
老年看護の展開Ⅰ	矢野 玲枝 認知症看護認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野 「脳・神経」 医学書院	1) 看護の展開セット 2) 系統看護学講座 専門分野 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院
	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	1) 系統看護学講座 専門分野 「脳・神経」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「リハビリテーション看護」 医学書院	
	摂食・嚥下 障害看護認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野 「脳・神経」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 「リハビリテーション看護」 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野 「耳鼻咽喉」 医学書院	
老年看護の展開Ⅱ	松永 貴子 山口 一世 松本 理恵 呼吸理学療法士 慢性心不全看護認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野 「呼吸器」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「循環器」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野 「運動器」 医学書院 4) 系統看護学講座 別巻 「クリティカルケア看護学」 医学書院 5) 系統看護学講座 別巻 「リハビリテーション看護」 医学書院	1) 看護の展開セット 2) 系統看護学講座 専門分野 「老年看護学」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院
老年看護の展開Ⅲ	山口 一世 松永しのぶ	1) 系統看護学講座 専門分野 「内分泌・代謝」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「消化器」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野 「腎・泌尿器」 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野 「耳鼻咽喉」 医学書院	1) 看護の展開セット 2) 系統看護学講座 専門分野 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院
	透析看護認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野 「腎・泌尿器」 医学書院	
	緩和ケア認定看護師	1) 系統看護学講座 専門分野 「消化器」 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 「緩和ケア」 医学書院	
	喉頭摘出患者会 会員		1) 「新しい言葉の命を得て」 池上 登 静岡新聞社 2) 「食道発声の手引き」 高藤 次夫 銀鈴会

必修科目(25)

科目	老年看護学 老年看護の展開 I	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師:矢野 玲枝 摂食・嚥下障害看護認定看護師 認知症看護認定看護師 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
----	--------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	--

講義の概要および学習目標	<p>脳は、人間が生存し、生活していくうえでのあり方、感じ方や考え方などその人らしさなどをつくりあげ、神経系の働きを統括する。脳神経疾患患者の多くは、突然発症し意識障害・呼吸障害・循環障害・機能障害などを引き起こす。急性期は生命の危機にさらされることも多い。また、生命危機を脱しても、運動・感覚・高次脳などの機能障害を残し、これまでの生活が一変することもある。そこで本科目では、老年期における発達の特徴を理解しながら、人間を統合する脳の働きに障害のある対象を理解できるよう、超急性期から回復期までの看護を学んでいく。そして、回復過程に合わせた看護実践がおこなえることを目指して気づきトレーニングやリハビリテーションを含めた基礎的能力を学ぶ。</p> <p>《学習目標》 人間を統合する脳の働きに障害のある対象の理解と健康障害の段階に応じた看護実践ができるよう、脳の働きと障害についての知識を基に、状態に応じた看護を学ぶ</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 脳梗塞により人間を統合する脳の働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・【演習】神経系フィジカルアセスメント(意識状態に関するもの) ・事例展開 2 くも膜下出血により人間を統合する脳の働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・【演習】手術前の観察 シミュレーション ・事例展開(手術後の観察を含む) 高次脳機能障害のある患者の看護 3 リハビリテーション総論 4 理学療法を受ける患者の理解 <ul style="list-style-type: none"> 【演習】神経系フィジカルアセスメント (運動機能・感覚機能・反射・小脳機能に関するもの) 5 作業療法を受ける患者の理解 <ul style="list-style-type: none"> 【演習】神経系フィジカルアセスメント (運動機能・感覚機能・反射・小脳機能に関するもの) 6 言語障害を受ける患者の理解 7 摂食嚥下機能訓練を受ける患者の理解および看護 8 認知症患者の理解および看護 9 終了試験
評価法	課題提出状況・課題内容 筆記試験 出席状況と授業態度
受講生への要望	<p>既習科目と関連させて学習することが大切です。特に、看護のための疾病論で学んだ知識を踏まえて、人間のもつ回復力を促進することを考えて主体的に看護を考えてほしいです。</p> <p>脳の障害は目に見えてわかりやすい症状があれば、わかりにくい症状もあります。そのため、看護者の観察による気づきが重要となります。正しい観察方法を学び、何が起きているのか、どのような症状があるのかに気づく力を養いたいと考えています。そのため、演習には主体的に参加してほしいです。</p> <p>さらに、看護者として・人として、対象を尊重し、反応がある・ないにかかわらず、どのようにかかわれたらよいのかを考えながら学んでほしいです。</p>

必修科目(26)

科目	老年看護学 老年看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 後期	担当者	看護師:松永 貴子 看護師:山口 一世 看護師:松本 理恵 呼吸理学療法士 慢性心不全看護認定看護師
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	--

講義の概要および学習目標	<p>呼吸は、生物体が生きていくために不可欠な酸素を自然界から体内に取り入れ、不要物を外界に排泄する役割を担っている。この酸素などの物質が運搬されるために、循環機能が正常に働き、生命を維持している。呼吸、循環の機能の不可逆的な変化による健康障害をもち、生活の調整をしながら慢性的な経過をたどる老年期の対象の状態に合わせた看護について学ぶ。</p> <p>下肢は行動範囲を拡大し生活を支える。加齢に伴う機能変化と共に運動器を障害された対象の身体的・精神的・社会的問題について学習し、生活を維持するための看護を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間が生命を維持するための直接的な機能を担う呼吸・循環のしくみと障害についての知識を基に、その働きに障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ 2 老年期の発達課題と老化に伴う変化を理解しながら、行動範囲を拡大する働きを担う運動器の健康障害をもつ対象への看護ができるための基礎的な能力を身につける
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命を維持する働きに障害のある患者の看護 ・心臓弁膜症による心不全患者の看護(事例展開) 【演習】循環器系のフィジカルアセスメント 2 生命を維持する働きに障害のある患者の看護 ・慢性閉塞性肺疾患患者の看護(事例展開) 【演習】吸引・吸入、排痰法、体位ドレナージ 3 呼吸・循環障害に関するリハビリテーション 4 行動範囲を拡大する働きに障害のある患者の看護 ・大腿骨頸部骨折患者の看護(事例展開) 【演習】牽引療法
評価法	出席状況、授業への参加態度、課題提出状況・筆記試験を総合評価とします。
受講生への要望	<p>受講に際しての事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。主体的な学習姿勢を期待します。</p> <p>授業の中で基礎知識に戻るときには、解剖生理学や病態生理と治療の教科書を活用しましょう。</p>

必修科目(27)

科目	老年看護学 老年看護の展開Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	2年後期	担当者	看護師:山口 一世 看護師:松永 しのぶ 緩和ケア・透析看護 認定看護師 喉頭摘出患者会会員
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	---

講義の概要および学習目標	<p>すべての生物体は生きていくために不可欠な物質を自然界から体内に取り入れ、不要物を外界に排泄している。そして人間は固有の内部環境を持ち外界との間に独特な関係を結んでいる。</p> <p>この科目では内部環境を整える働きが障害されたことで起こる身体的・精神的・社会的問題を加齢に伴う身体機能の変化を踏まえ、事例展開しながら学習する。</p> <p>また、感覚器系に障害を持つ患者を理解するため、障害を持ちながら社会で活躍している方の体験談や闘病記を紹介している。外界と個の不応現象による障害を持つ対象を理解し、身体障害について理解を深めるとともに、状況に応じた看護ができるための基礎的能力として、障害に対する回復への援助(自立に向けた援助)について考える。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 内部環境を維持する働きに障害を持つ対象の理解と、健康の段階に応じた看護ができるための基礎的な能力を身につける 2 老年期の発達課題と、老化に伴う変化を理解し、障害をもちながらよりよく生きることを支える看護の基礎的な能力を身につける 3 外界と個との不応現象による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的な能力を身につける
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 内部環境を維持する働きに障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 肝硬変の患者の事例展開 【演習】腹水・浮腫のある人の観察 2 内部環境を維持する働きに障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 慢性腎不全患者の事例展開 ・ 透析療法について 3 がん細胞の増殖により臓器の働きが障害された人の看護 緩和ケアを中心に理解する <ul style="list-style-type: none"> ・ 臓器がん患者の事例展開 4 外界と個の不応現象による障害のある人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感覚機能の変化と喪失(喉頭全摘術後の生活の理解を中心に) ・ 当事者の体験を聴くことで喉頭癌患者の看護を考える
評価法	<p>筆記試験 講義期間中の課題 出席状況と授業態度</p>
受講生への要望	<p>受講に際して事前・事後学習、関連既習内容の復習が必要とされます。</p> <p>臨地実習へつなげるためには、ここでの学習を更に深めるための自己学習も重要です。</p> <p>事例展開の授業では、事例患者をイメージし、課題を進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を期待します。</p>